

ラック形非常用放送設備

取扱説明書

品番 **WL-7050A**
WL-7550A

この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なおきにお読みください。

保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付



WL-7050A



WL-7550A

もくじ

商品概要	2
付属品をご確認ください	2
安全上のご注意	2
使用上のお願い	4
<hr/>	
各部の名前と働き	5
■本体部	5
■非常操作ユニット部	6
■ミキサーユニット部	9
非常放送のしかた	10
■非常放送の概要	10
■火災感知器から起動する場合	12
■発信機および非常電話から起動する場合..	14
■手動で起動する場合	16
業務放送のしかた	18
■優先順位について	18
■非常操作ユニットからの放送	19
■ミキサーユニットからの放送	20
緊急放送のしかた	22
相互通話のしかた	23
<hr/>	
日常点検	24
■自動点検について	24
■電源の点検	26
■総合点検	27
故障と恐れられましたら	27
保証とアフターサービス	裏表紙

このたびは、ラック形非常用放送設備をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

商品概要

- 本機は、中規模から大規模建築物に対応するラック形非常用放送設備です。
- 非常放送*1は、音声警報により発報放送、火災放送、非火災放送を行います。また操作手順を音声と液晶パネル上での文字表示により指示しますので、簡単に操作できます。
- 火災放送が出火階、連動階に放送（区分鳴動）され、一定の時間が経過した後、自動的に全館への一斉火災放送を行うことができます。
- 非常放送以外の業務放送*2や緊急放送*3などの使用や、パソコンによる管理、セキュリティ監視システムとの連動などもできます。

※1：消防法で定める非常放送設備による火災発生時の放送をいいます。

※2：一般の呼び出し、連絡、BGMなどの放送をいいます。

※3：停電、ガス漏れ事故などの緊急事態に備え、業務放送より優先して行う放送をいいます。ただし、緊急放送用の工事をする必要があります。

付属品をご確認ください

取扱説明書(本書)	1	工事説明書(設置工事編)	1
操作説明書	1	工事説明書(書き込み編)	1
保証書	1		

※設置工事に使用する付属品については、工事説明書(設置工事編)に記載しています。

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたとき生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただきたい「強制」内容です。

警告

工事は販売店に 依頼する



工事には技術と経験
が必要です。火災、
感電、けが、器物損
壊の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してくださ
い。

異物を入れない



禁 止

水や金属が内部には
いると、火災や感電
の原因となります。

- ただちに電源制御ユニットのブ
レーカーまたは分電盤の電源を
切り、販売店にご連絡ください。

分解しない、 改造しない



分解禁止

火災や感電の原因と
なります。

- 修理や点検は、販売店にご依
頼ください。

異常があるときは、 すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがす
るなど、そのまま使
用すると火災の原因
となります。

- ただちに電源制御ユニットのブ
レーカーまたは分電盤の電源を
切り、販売店にご連絡ください。

周囲に物を置かない



禁 止

非常時に操作の妨げ
となり、火災・災害
の拡大の原因となり
ます。

- 指定範囲は常に整理、整頓し
てください。

定期的に点検する



非常時に作動しない
と、火災や災害を拡
大する原因となりま
す。

- 点検は販売店や保守契約店に
依頼してください。

注意

蓄電池の交換は、販売店 か保守契約店に依頼する



感電の原因となりま
す。

通風孔をふさがない



禁 止

内部に熱がこもり、
火災の原因となりま
す。

使用上のお願い

●日常点検をしてください

万一の際(非常時)、機器が正常動作するように日常点検を行ってください。特に非常電源の点検は必ず行ってください。日常点検の方法は、24～27ページをご覧ください。

●日常点検時に異常を発見した場合は、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください

●必ず定期点検を行ってください

日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、全てではありません。
必ず定期点検を行ってください。

●保守契約のお願い

消防法により定期点検、消防署への報告および点検結果の維持台帳への記録が義務づけられています。建物の規模、用途によっては消防設備士または総務大臣が認めた有資格者が点検しなければなりません。ラック形非常用放送設備が正しく動作するために、保守契約の締結をおすすめします。保守契約の締結については、販売店(工事店)または販売会社にお問い合わせください。

※保守契約を締結していただくということは、ご使用者にかわって「消防設備士」、「消防設備点検資格者」が定期点検を引き受けることとなりますので、保証期間内であっても定期点検業務については有料となります。

●分電盤のスイッチは絶対に切らないでください

ラック形非常用放送設備には、停電時でも放送できるように非常電源が組み込まれており、常に蓄電池を充電していますので、分電盤などのスイッチには付属の非常放送用注意ラベルを貼り付け、絶対に「切」にならないようにしてください。

●本機の周辺に物を置かないでください

左右0.5 m以内、操作面2 m以内に物を置かないでください。操作の妨げとなります。

●操作説明書は機器の近くに置いてください

非常時に確実に操作できるよう、付属の「操作説明書」の中で設定に合った非常放送手順のものを本機の近くに置いてください。

●お手入れは

ケースが汚れたときは、水で薄めた台所用洗剤(中性)をやわらかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽く拭いてください。そのあと、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。
ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

お願い

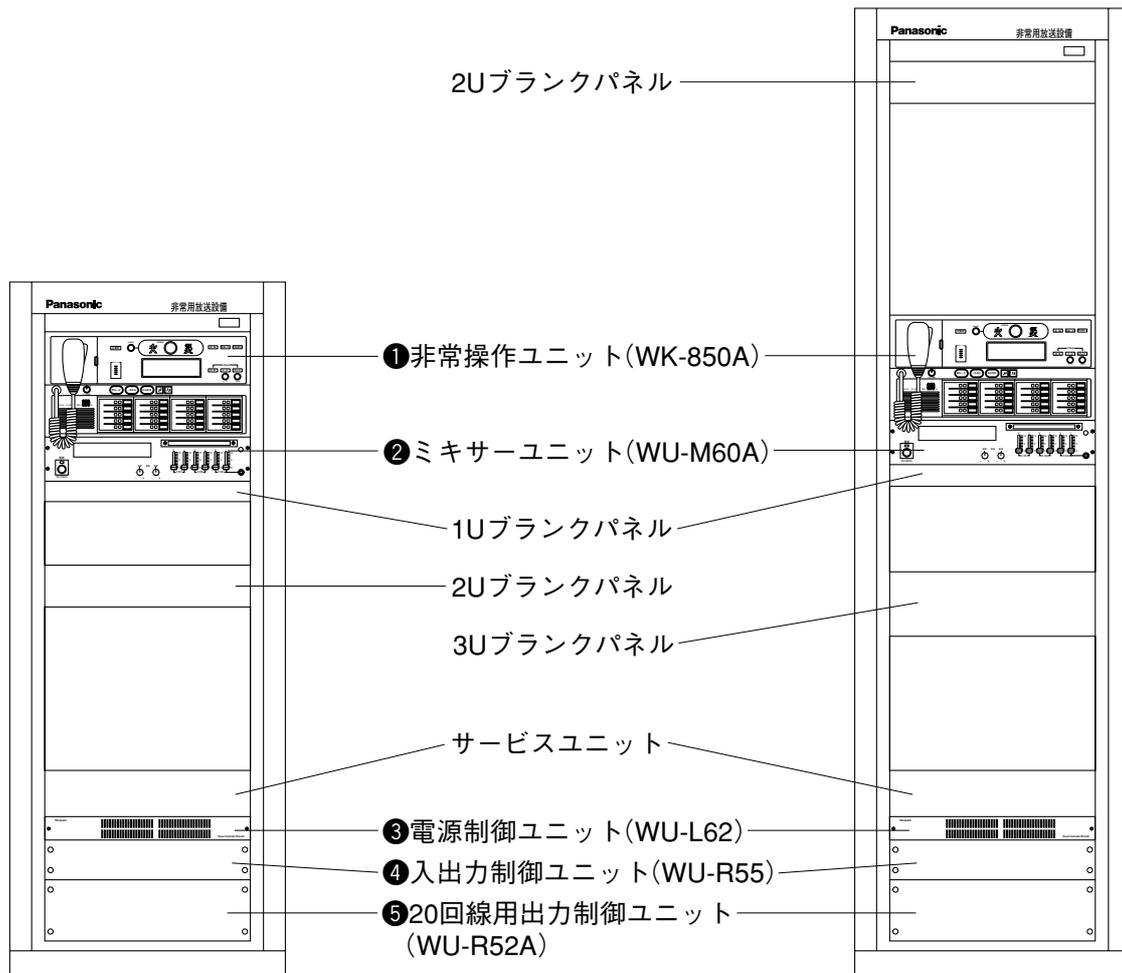
- ・操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れする場合は、操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみ行ってください。
- ・内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

各部の名前と働き

■本体部

スタンダードラック形 (WL-7050A)

ロングラック形 (WL-7550A)



① 非常操作ユニット(WK-850A)

全館一斉、出火階と連動階などへ非常放送を行います。また、一般の業務放送をすることもできます。

② ミキサーユニット(WU-M60A)

マイク、ラジオ、レコードプレーヤ、テープレコーダなどを接続するためのユニットです。接続した機器を使い業務放送を行います。

③ 電源制御ユニット(WU-L62)

非常操作ユニット①、入出力制御ユニット④、20回線用出力制御ユニット⑤、電力増幅ユニット、非常電源ユニット、非常リモコン、一般リモコン、10回線用出力制御ユニットに電源を供給・制御するためのユニットです。

④ 入出力制御ユニット(WU-R55)

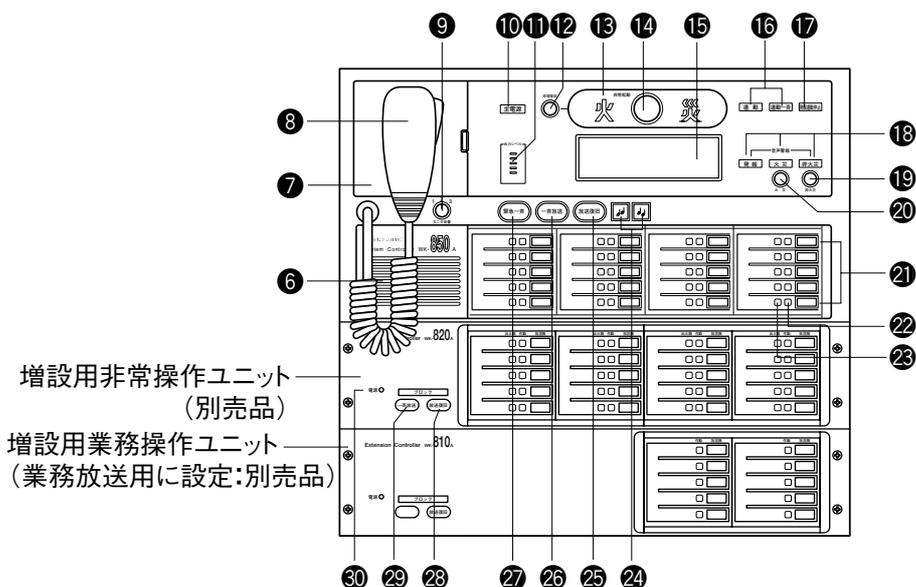
リモコンやその他の周辺機器を接続するためのユニットです。

⑤ 20回線用出力制御ユニット(WU-R52A)

スピーカ回線の接続、制御用のユニットです。また自火報(自動火災感知器)の入力端子を持っています。

各部の名前と働き

■非常操作ユニット部(WK-850A)



⑥ モニタスピーカ

放送状態を確認できます。ハウリング防止のため、マイクスイッチを押すとモニタスピーカの音が小さくなります。

⑦ マイクドア

開くと内部にスイッチがあります。(⇒8ページ参照)

⑧ 非常、業務放送兼用マイクロホン

- ・マイクを外し、スイッチを押しながら放送します。
- ・業務放送中に非常放送が入った場合、マイクでの放送は遮断され非常放送が優先されます。再度マイクで放送するときはスイッチを一度離してください。

⑨ モニタ音量つまみ [モニタ音量]

モニタスピーカ⑥の音量を3段階に調整します。

⑩ 主電源表示(緑色) [主電源]

常用電源(AC100 V)使用中は緑色に点灯します。非常電源(DC24 V)に切り換わると消灯します。

⑪ 出力レベルメータ [出力レベル]

非常操作ユニットからの音量出力レベルを表示します。

⑫ 非常復旧スイッチ [非常復旧]

非常放送モードのときに、このスイッチを押すと非常放送モードを終了します。

⑬ 火災表示(赤色)

- ・非常起動スイッチ⑭を押したときに点灯します。ただし、第1タイマー作動中は点滅します。
- ・自動火災感知器、発信機または非常電話からの起動により、点灯または点滅します。

⑭ 非常起動スイッチ [非常起動]

手動で非常放送するときは、このスイッチを押してください。

⑮ 液晶パネル

非常放送時の操作指示、異常発生時の内容、動作状態などを表示します。

〈非常放送中〉	放送名
◆マイク放送をせよ	操作指示
	起動名や動作状態
蓄電池異常 通信異常 回線短絡	異常表示

⑯ 連動、連動一斉表示(赤色) [連動] [連動一斉]

連動切替スイッチ⑳の設定が連動のときは「連動」が、連動一斉のときは「連動一斉」が点灯します。

⑰ 発報連動停止表示(赤色) [発報連動停止]

発報連動停止スイッチ㉓の設定が「発報連動停止」のときに点灯します。

スイッチを押す



- ⑱発報(オレンジ色)、火災(赤色)、非火災表示(緑色) [発報] [火災] [非火災]
非常放送の状態を表示します。
- ⑲非火災放送スイッチ [非火災]
非常放送モードのときに、このスイッチを押すと非火災放送が放送されます。(非火災表示(緑色)点灯)
- ⑳火災放送スイッチ [火災]
非常放送モードのときに、このスイッチを押すと火災放送が放送されます。(火災表示(赤色)点灯)
- ㉑放送階選択スイッチ [放送階]
放送したいブロック(部屋、エリア)または階を選択するときに押します。(作動表示点灯)
再度押すと選択を解除します。(作動表示消灯)
- ㉒作動表示(緑色) [作動]
 - ・放送階選択スイッチ㉑、一斉放送スイッチ㉔、緊急一斉放送スイッチ㉗を押すと点灯します。
 - ・非常時は、出火階または連動階の作動表示が点灯します。
 - ・入力マトリクスを使用している場合は、入力1で放送しているときのみ点灯します。
 - ・スピーカ回線が短絡すると、短絡した階の作動表示が点滅します。このようなときは、販売店または保守契約店にご連絡ください。
- ㉓出火階表示(赤色) [出火階]
自動火災感知器が起動したときに、出火階を点灯します。ひとつの階に複数の放送エリアがあるときは、その階すべての放送エリアの出火階表示が点灯します。
- ㉔コールサインスイッチ
放送階選択スイッチ㉑で放送する場所を選んだ後にこのスイッチを押すとコールサインがなります。
放送の前後に押してください。( : 上り4音、  : 下り4音)
- ㉕放送復旧スイッチ [放送復旧]
放送が終了したら押します。放送階選択スイッチ㉑で選択した放送階がすべて解除されます。
- ㉖一斉放送スイッチ [一斉放送]
一斉放送するときに押します。アッテネータ(音量調整器)が「OFF」のときは放送できません。
- ㉗緊急一斉放送スイッチ [緊急一斉]
一斉放送するときに押します。アッテネータ(音量調整器)が「OFF」でも放送できます。
(ただし、3線式配線の場合に限ります。)

●増設用非常操作ユニット(WK-820A)、業務操作ユニット(WK-810A)部

※WK-810Aは、業務操作ユニット用に設定した場合の例です。

- ㉘ブロック放送復旧スイッチ [ブロック 放送復旧]
増設ユニット毎(10局または20局)の放送階選択スイッチを復旧するときに押します。
- ㉙ブロッケー斉放送スイッチ [ブロック 一斉放送]
増設ユニット毎(10局または20局)に一斉放送するときに押します。
- ㉚電源表示灯
通電状態で点灯します。

※出火階表示、作動表示、放送階選択スイッチは、非常操作ユニット部(WK-850A)と同じです。

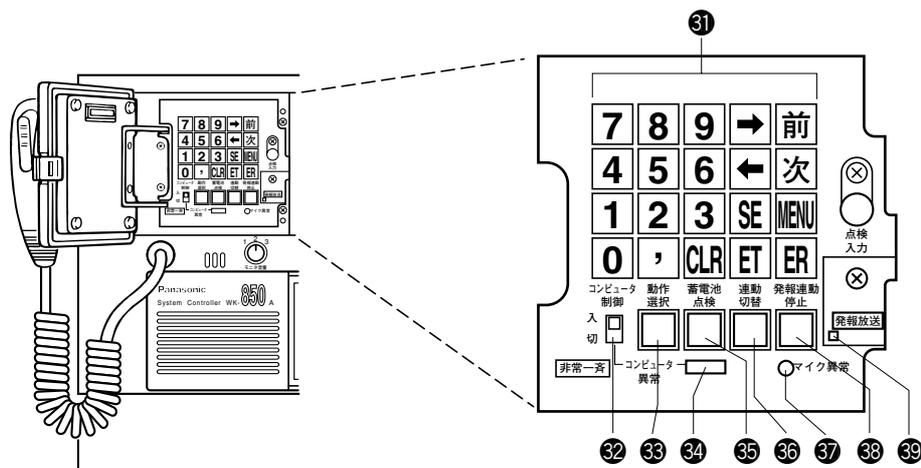
メモ

業務放送用の操作ユニットとして使用する場合は、以下の内容が異なります。

- ・ブロッケー斉放送スイッチ㉙は操作できません。(このスイッチはありません。)
- ・出火階表示(赤色)はありません。

各部の名前と働き

●マイクドア内部



③①書き込みスイッチ

階別連動設定、優先順位設定、入出力設定などの書き込みを行うスイッチです。
詳細については、「工事説明書(書き込み編)」で説明しています。

③②コンピュータ制御スイッチ [入/切]

- ・通常は、必ず「入」にしてください。
- ・異常が発見され修理した後、このスイッチを「切」にしてから「入」にすると、正常の動作に戻ります。
- ・コンピュータ異常時に放送するときは、「切」にすると一斉マイク放送ができます。

③③動作選択スイッチ [動作選択]

押すたびに「通常動作」⇒「点検」⇒「書き込み」と切り換わります。ただし、非常放送中は切り換えられません。

通常動作：通常はこの状態にします

点 検：総合点検を行う場合はこの状態にします(⇒27ページ参照)

書き込み：書き込みを行う場合はこの状態にします

③④コンピュータ異常表示(赤色)

コンピュータ異常時、点灯します。

③⑤蓄電池点検スイッチ [蓄電池点検]

蓄電池の手動点検用スイッチです。スイッチを押したときに異常があると、ブザーが鳴るとともに液晶パネル⑮に「蓄電池異常」と表示されます。(⇒26ページ参照)

③⑥連動切替スイッチ [連動切替]

押すたびに「連動一斉」⇔「連動」と切り換わります。

連動一斉：自動火災感知器と連動し、全館一斉に非常放送を行います。(連動一斉表示⑮点灯)

連 動：自動火災感知器と連動し、出火階、連動階に非常放送を行います。(連動表示⑮点灯)

③⑦マイク異常表示 [マイク異常]

マイクロホンが接続されていない場合などに点灯します。

③⑧発報連動停止スイッチ [発報連動停止]

押すたびに「発報連動」⇔「発報連動停止」と切り換わります。

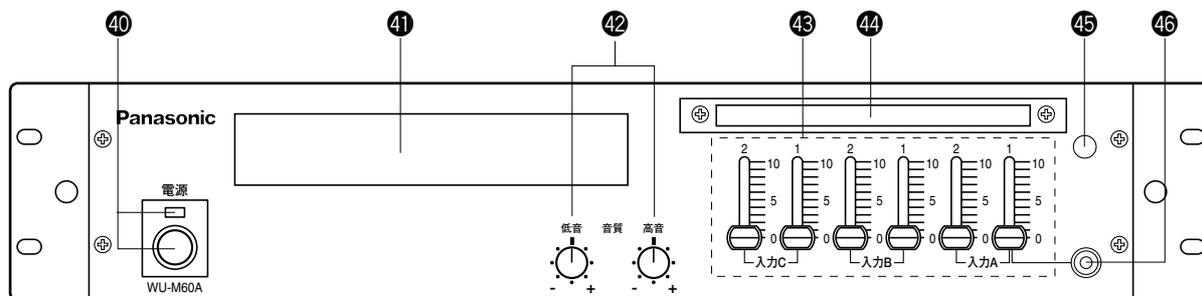
発報連動：自動火災感知器の動作によって、発報放送を行います。(発報連動停止表示⑰消灯)

発報連動停止：自動火災感知器の動作時に発報放送が放送されません。手動または自動により火災放送に移行します。(発報連動停止表示⑰点灯)

③⑨発報火災切替スイッチ [発報放送/火災放送]

発信機、非常電話起動時および手動起動時の非常放送を、発報放送か火災放送に切り換えるスイッチです。スイッチ固定板は、はずさないでください。

■ ミキサーユニット部(WU-M60A)



④⑩電源スイッチ、電源表示灯

電源スイッチを押すとシステム全体の電源が入り、表示灯が点灯します。ミキサーユニット単独の電源入/切はできません。

④①チューナblankパネル

ラジオチューナユニット(別売品)を取り付けることができます。

④②音質つまみ [低音/高音]

音質(低音や高音)を調整するつまみです。右方向(+)へ回すと強調され、左方向(-)へ回すと弱くなります。お好みの音質に調整してください。

④③音量つまみ [入力A-1/A-2/B-1/B-2/C-1/C-2]

スピーカから流れる音量を調整します。

本機の放送優先順位は、①入力Aとコールサイン(別売)、②入力B、③入力Cとチューナ(別売)です。入力Aに信号が入ると入力B,C,チューナの音量が下がり、入力Bに信号が入ると入力C,チューナの音量が下がります。

④④記名シート

音量つまみで調整できる機器の名称を記入します。

④⑤コールサインスイッチ孔

コールサイン基板(別売品)を取り付けることができます。

④⑥入力ジャックA-1

マイクを前面で使用するときには接続します。後面のジャックよりも優先されます。

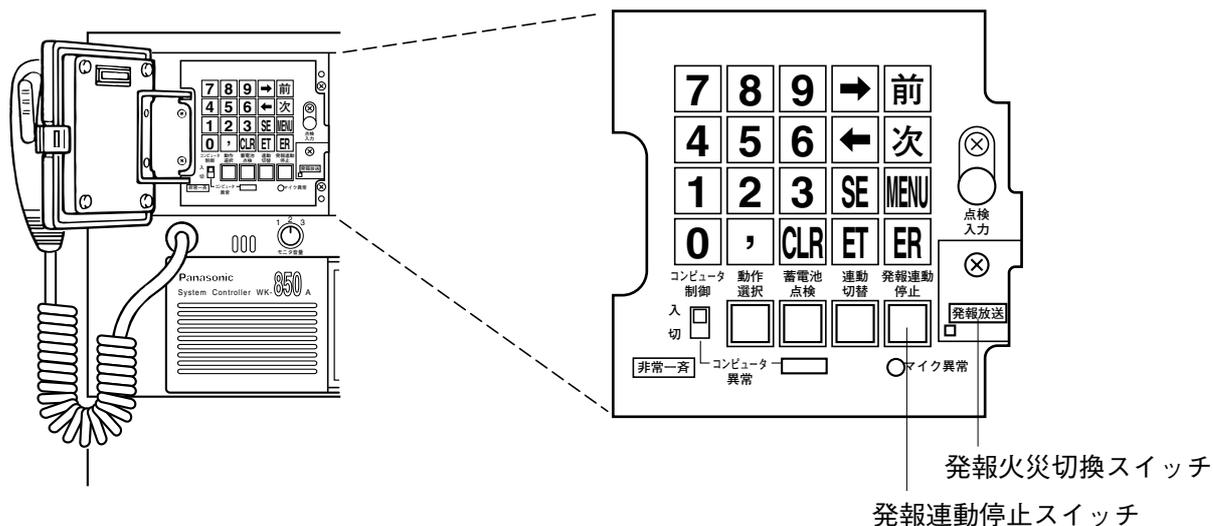
非常放送のしかた

■非常放送の概要

- 本システムは、自動火災感知器と連動して自動的に非常放送(発報放送、火災放送、非火災放送)を行います。
- 内部の設定により火災発生時の非常放送手順が異なります。
あらかじめ販売店(工事店)に起動方式をご確認ください。

[起動方式別参照ページ一覧表]

起動方式(入力)	自動/手動	発報連動停止スイッチの設定		発報火災切換スイッチの設定	
		発報連動	発報連動停止	発報放送	火災放送
火災感知器(第一報)	自動	12ページ参照	13ページ参照		
発信機、非常電話	自動				
非常起動スイッチを押す	手動			16ページ参照	17ページ参照



●マイク放送について

- ・マイク放送は、音声警報より優先して放送されます。状況を把握し、マイクで放送してください。
- ・マイクで業務放送中に非常放送が入った場合は、マイクでの放送は遮断され非常放送が優先されます。
- ・マイク放送後は、下記の状態になります。
 「発報放送」中のマイク放送後 : 無音、第1タイマー継続
 「非火災放送」中のマイク放送後 : 無音
 「火災放送」中のマイク放送後 : シグナル音が鳴ります

●放送復旧スイッチを押した後の動作について

「発報放送」中の放送復旧後 : 無選択、無音、第1タイマー継続

「非火災放送」中の放送復旧後 : 無選択、無音

「火災放送」中の放送復旧後 : 無選択、無音

注) 第2タイマータイムアップによる「一斉火災放送」中は、放送復旧スイッチは無効となります。

●連動表示が点灯している場合

自動火災感知器、発信機または非常電話からの起動による非常放送は、出火階と連動階に放送されます。

●連動一斉表示が点灯している場合

自動火災感知器、発信機または非常電話からの起動による非常放送は、全館一斉に放送されます。

●アナウンスユニットを優先して放送する場合

アナウンスユニットを手動で起動させ、内蔵された音声警報メッセージよりアナウンスユニットを優先して放送することができます。このようなシステムを組まれている場合は、非常放送のしかたについて販売店(工事店)より説明を受けてください。

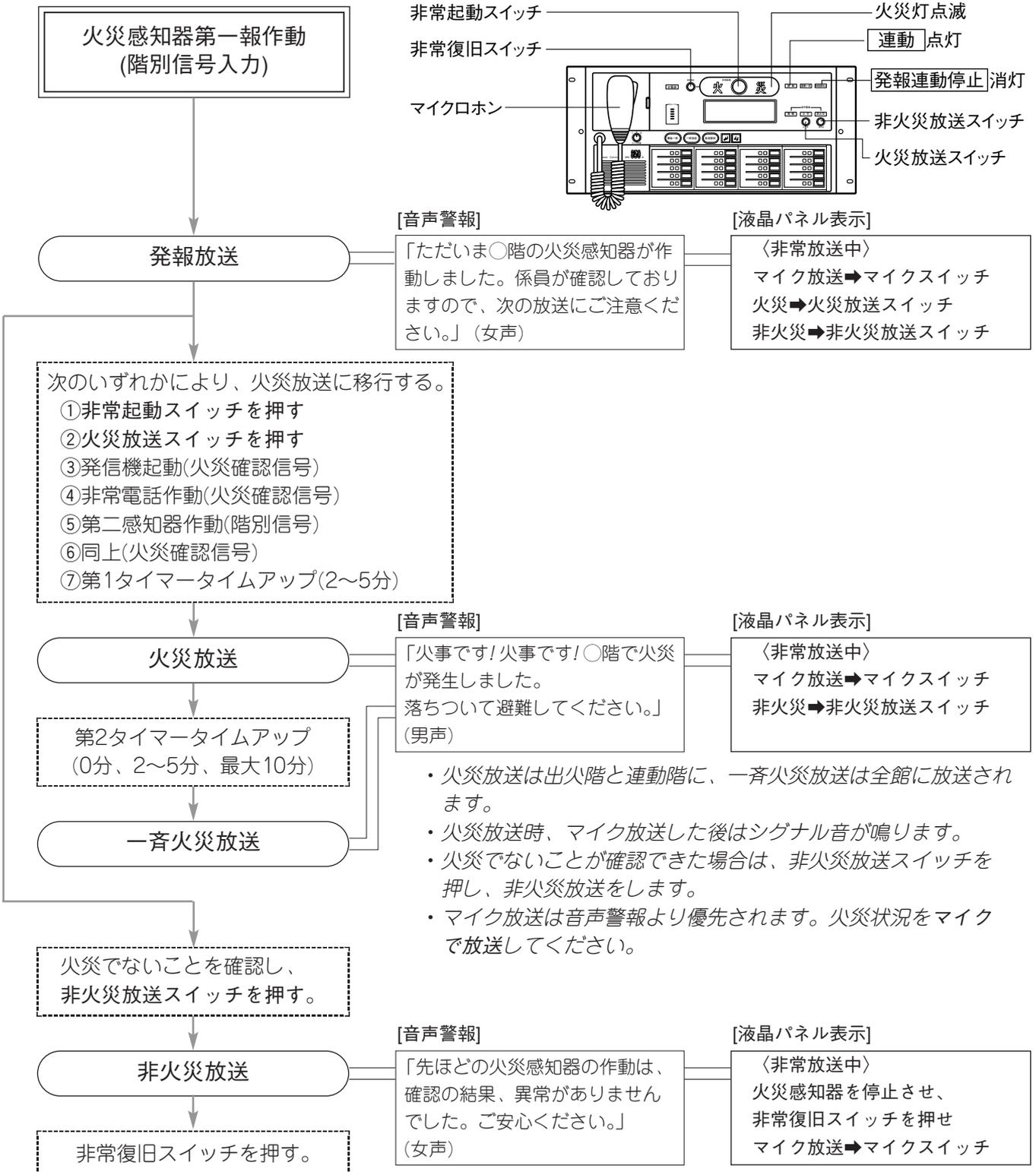
●用語の説明

連動一斉	自動火災感知器と連動し、自動火災感知器動作時に自動的に全館一斉非常放送できる状態をいいます。
連動.....	自動火災感知器と連動し、自動火災感知器動作時に自動的に出火階と連動階に階別非常放送できる状態をいいます。
発報連動停止	自動火災感知器動作時に発報放送をせず、本機のブザーが鳴ることをいいます。
第一報.....	はじめに火災報知設備より出力された信号をいいます。その次の信号を第二報といいます。
階別信号	自動火災感知器が火災を感知したことを知らせるために、火災報知設備より出力される信号をいいます。
火災確認信号	火災が確認された後に、火災報知設備より出力される信号をいいます。
第1タイマータイムアップ	階別信号受信後、設定した時間(2~5分)が経過すると自動的に火災放送に移行することをいいます。事前に販売店(工事店)から設定時間をご確認ください。5分以上の時間設定をする場合は、管轄消防署の確認が必要です。
(火災放送移行タイマー)	
第2タイマータイムアップ	火災放送が出火階、連動階に放送開始された後、設定した時間が経過すると自動的に全館への一斉火災放送に移行することをいいます。
(火災一斉放送移行タイマー)	
	設定時間はおおむね数分(非常用放送設備の場合は2~5分)とし最大10分以内と定められています。
	これ以外の時間設定をする場合は管轄消防署の確認が必要です。
	第2タイマーを0分に設定したときは、ただちに一斉火災放送に移行します。
	第2タイマーをOFFに設定したときは、一斉火災放送に移行しません。
	第2タイマータイムアップによる一斉火災放送中は、放送階の解除はできません。
	事前に販売店(工事店)から設定時間をご確認ください。

非常放送のしかた

■火災感知器から起動する場合

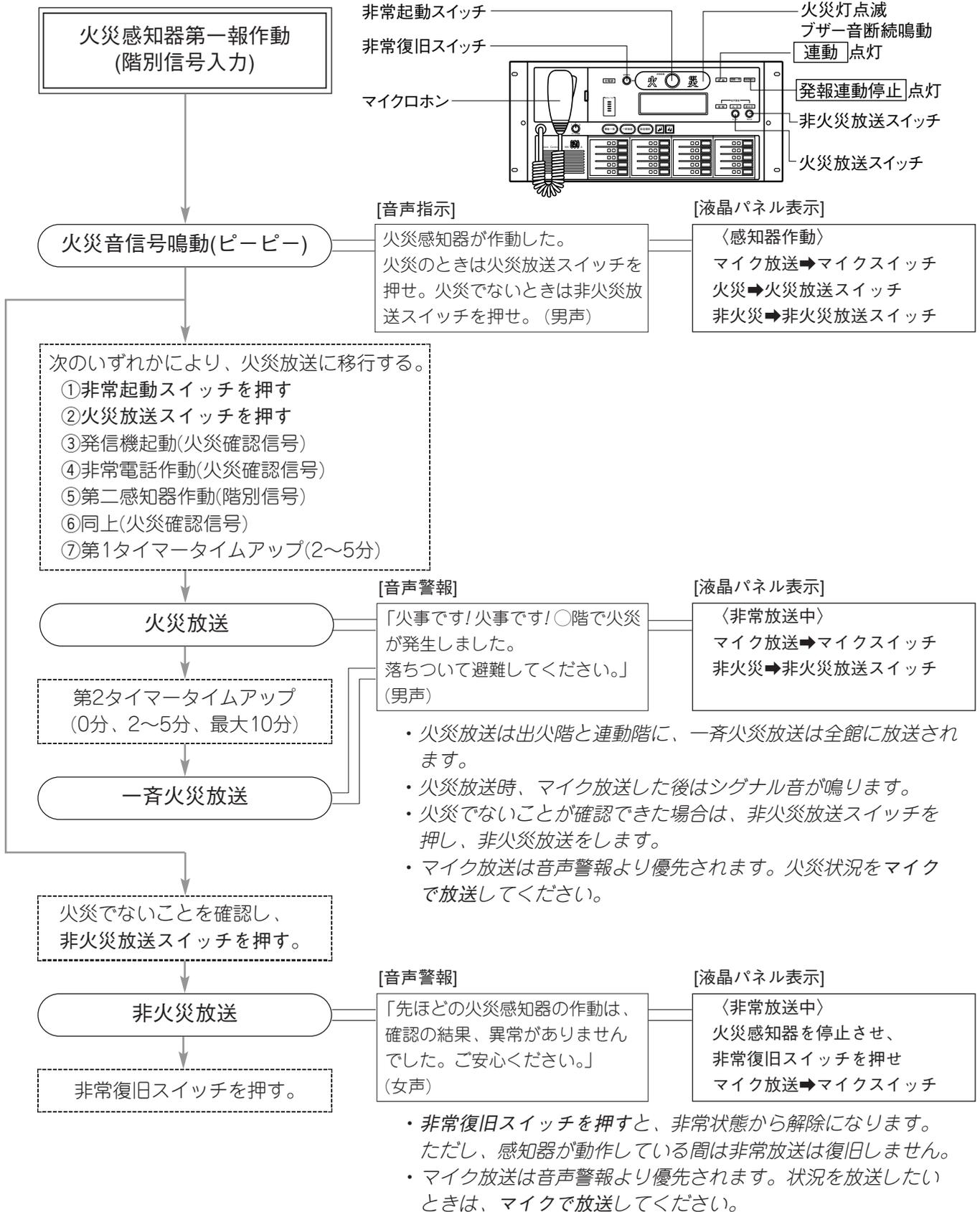
●発報連動停止スイッチの設定が「発報連動」の場合



- ・火災放送は出火階と連動階に、一斉火災放送は全館に放送されます。
- ・火災放送時、マイク放送した後はシグナル音が鳴ります。
- ・火災でないことが確認できた場合は、非火災放送スイッチを押し、非火災放送をします。
- ・マイク放送は音声警報より優先されます。火災状況をマイクで放送してください。

- ・非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。
- ・マイク放送は音声警報より優先されます。状況を放送したいときは、マイクで放送してください。

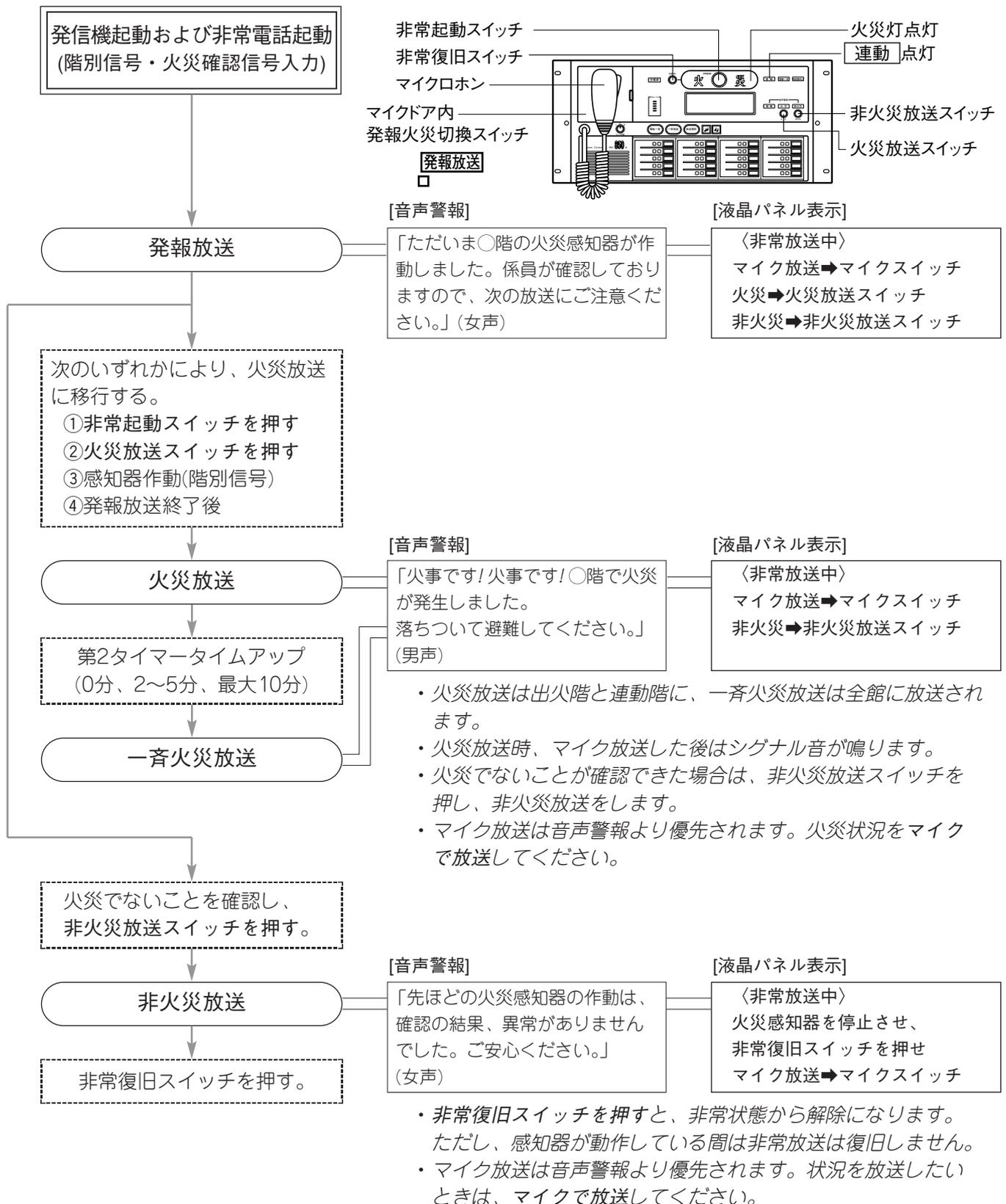
● 発報連動停止スイッチの設定が「発報連動停止」の場合



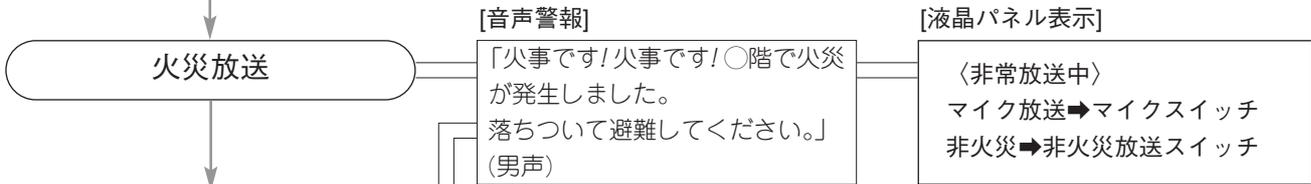
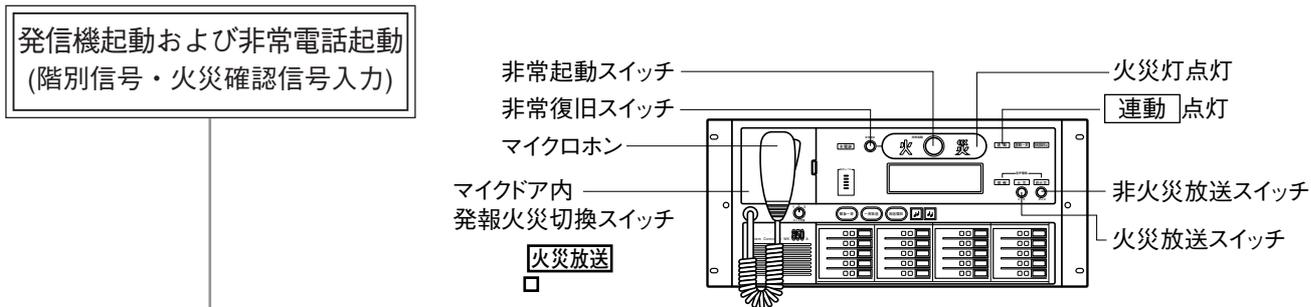
非常放送のしかた

■ 発信機および非常電話から起動する場合

● 発報火災切換スイッチの設定が「発報放送」の場合



● 発報火災切換スイッチの設定が「火災放送」の場合

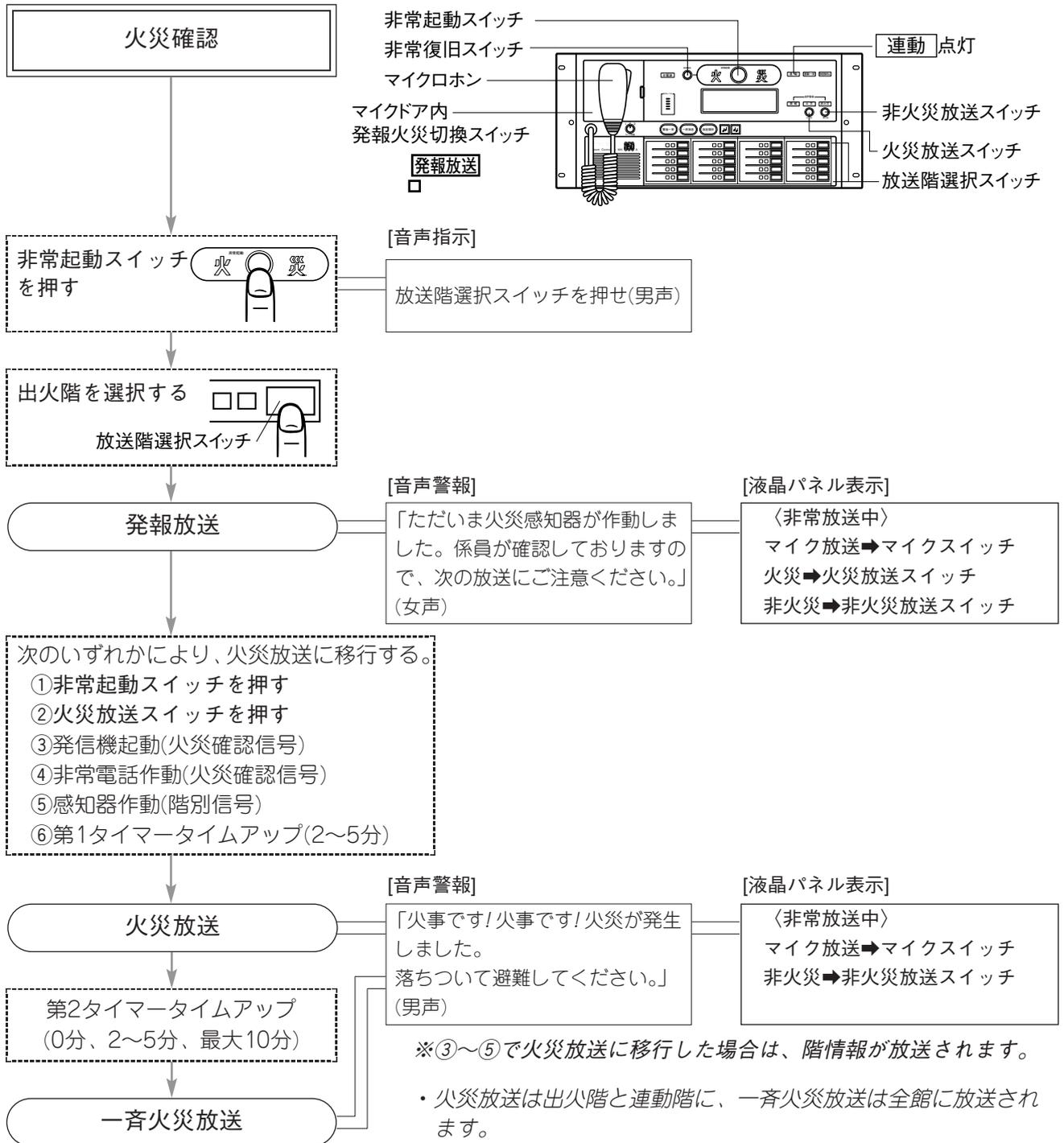


- ・ 火災放送は出火階と連動階に、一斉火災放送は全館に放送されます。
- ・ マイク放送は音声警報より優先されます。火災状況をマイクで放送してください。
- ・ 火災放送時、マイク放送した後はシグナル音が鳴ります。
- ・ 火災でないことが確認できた場合は、非火災放送スイッチを押し、非火災放送をします。
- ・ 非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。放送後は、非常復旧スイッチを押してください。

非常放送のしかた

■手動で起動する場合

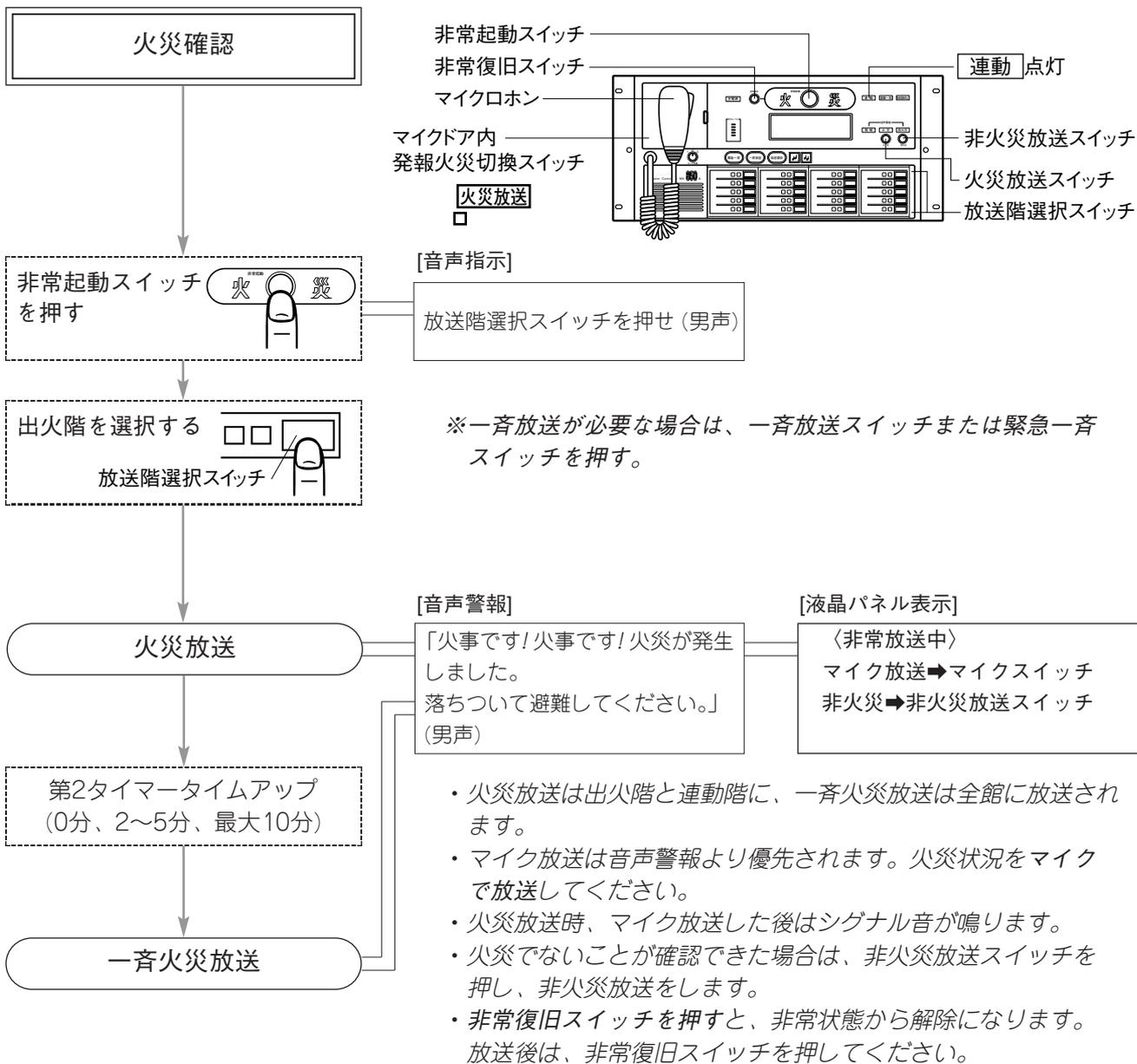
●発報火災切換スイッチの設定が「発報放送」の場合



※③~⑤で火災放送に移行した場合は、階情報が放送されます。

- ・火災放送は出火階と連動階に、一斉火災放送は全館に放送されます。
- ・マイク放送は音声警報より優先されます。火災状況をマイクで放送してください。
- ・火災放送時、マイク放送した後はシグナル音が鳴ります。
- ・火災でないことが確認できた場合は、非火災放送スイッチを押し、非火災放送をします。
- ・非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。放送後は、非常復旧スイッチを押してください。

● 発報火災切換スイッチの設定が「火災放送」の場合



業務放送のしかた

■優先順位について

業務放送とは案内やBGMなどの一般放送をいいます。業務放送は次のように放送の優先順位を設定することができます。そのため優先放送中は、優先順位の低い放送は放送されないことがあります。

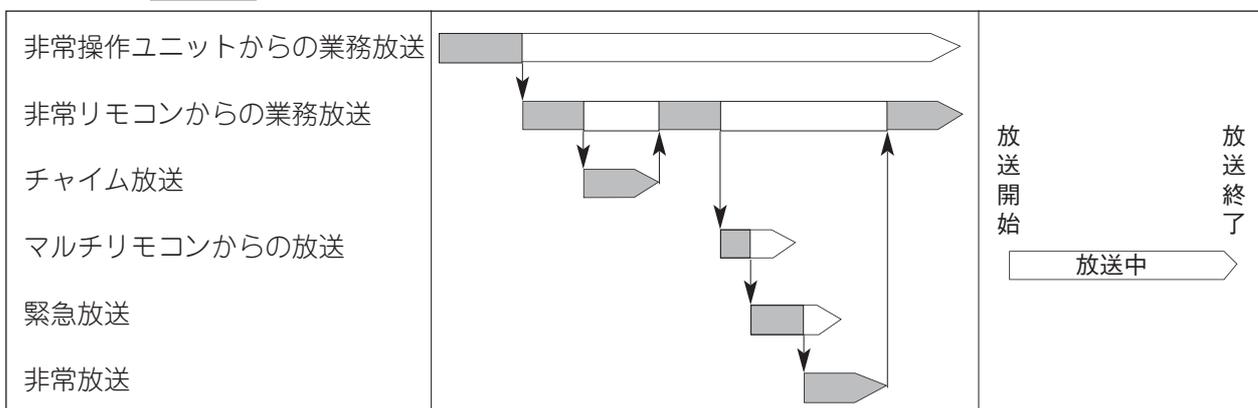
- ・優先順位は第1位から第4位まで設定でき、上位の放送が優先されます。
- ・優先順位が同じものは、後から押したスイッチの放送が優先されます。(後押し優先方式)
ただし非常放送時、緊急放送時には、後押し優先方式は働きません。
- ・出荷時は、すべての起動入力を第2位に設定しています。
- ・拡張制御ユニット(WK-890)使用時は、以下のようになります。
拡張一般リモコンとして使用する場合：一般リモコンと同順位になります
拡張外部制御入力として使用する場合：すべての入力が外部制御入力1と同順位になります
- ・集中非常リモコン(WR-855)使用時は、非常リモコンと集中非常リモコンが同順位になります。

[優先順位記入表]

起動入力		用途	優先順位			
			1	2	3	4
非常操作ユニット						
非常リモコン (集中非常リモコン)						
マルチリモコン	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					
一般リモコン						
チャイム						

起動入力		用途	優先順位			
			1	2	3	4
外部制御入力	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					

[放送例]  の部分がスピーカから放送されています。

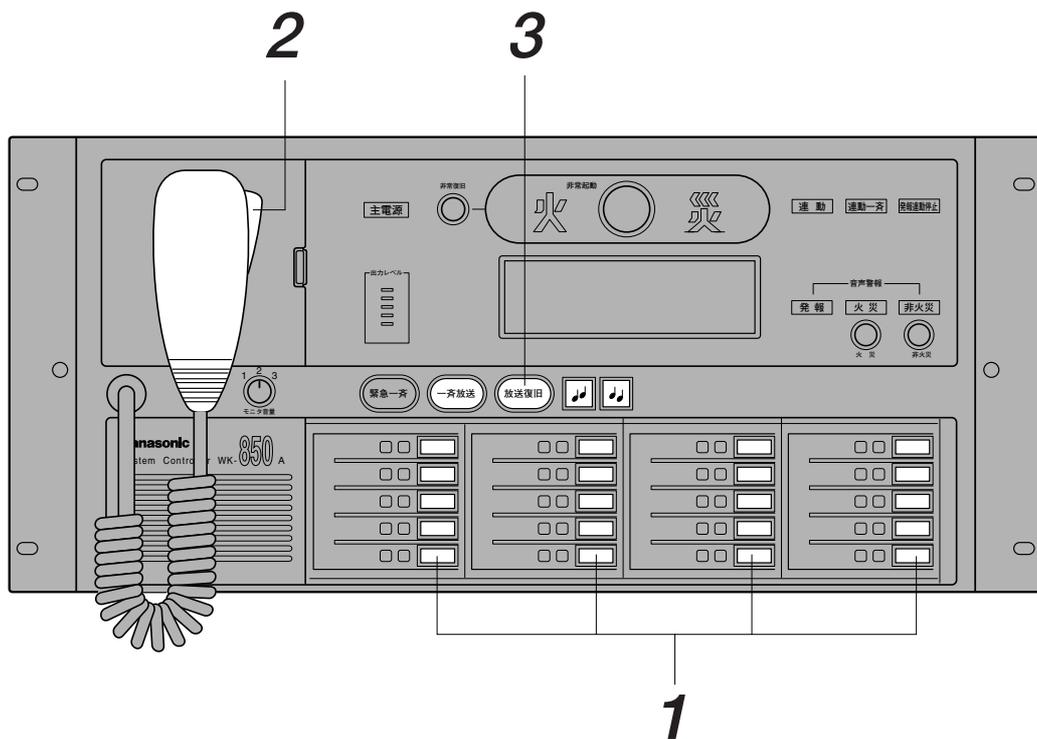


メモ

非常放送、緊急放送、業務放送での優先順位は以下のとおりです。

- ①非常放送 ②緊急放送(22ページをご覧ください) ③業務放送

■非常操作ユニットからの放送



1 放送階選択スイッチを押す
全館一斉に放送するとき、一斉スイッチを押します。

[液晶表示パネル]
〈業務放送中〉
本体 非常RM 集中RM

↑
本体からの放送

↑
集中非常リモコンからの放送

↑
非常リモコンからの放送

2 マイクのスイッチを押し、放送する
放送場所を追加するとき、その放送階選択スイッチを押します。

放送の前後にコールサインスイッチを押してください。

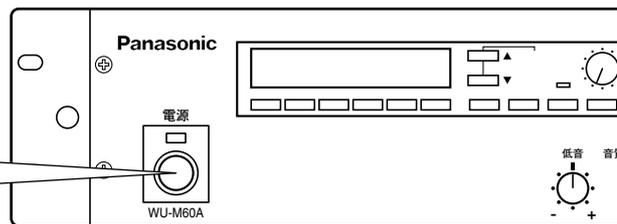
3 放送が終わったら、放送復旧スイッチを押す
個別に復旧するとき、それぞれの放送階選択スイッチを押します。

メモ
マイクで業務放送中に非常放送が入った場合は、マイクでの放送は遮断され非常放送が優先されます。再度マイクで放送するとき、スイッチを一度離してください。

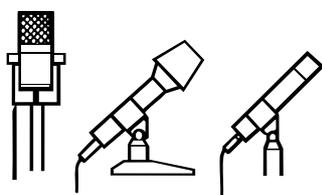
業務放送のしかた

■ミキサーユニットからの放送

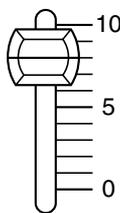
操作の前には「電源スイッチ」を「入」にしてください。
また放送終了後は「切」にしてください。



マイクロホンで放送するとき

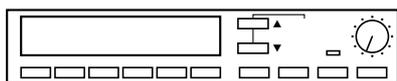


マイクの音量つまみを調整します。



放送の前後にコールサインスイッチを押して放送してください。(別売品)
(または非常操作ユニットのコールサインスイッチを押して放送してください。)

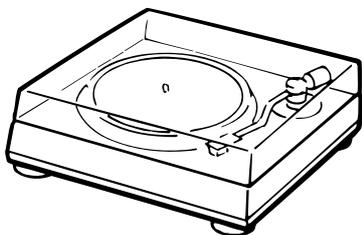
ラジオを放送するとき



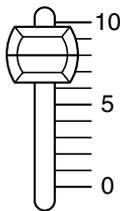
ラジオチューナーユニット
WU-T60 (別売品)

- ①電源スイッチを入れます。
- ②希望の局を選曲します。
- ③音量つまみを7~8に合わせます。

レコードを放送するとき

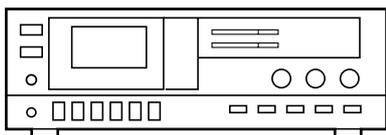


レコードの音量つまみ(入力C-2)を調整します。

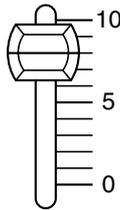


- ①スピードを合わせます。
 - ②トーンアームをのせます。
- 〔操作方法については、お手持ちのレコードプレーヤの取扱説明書をお読みください。〕

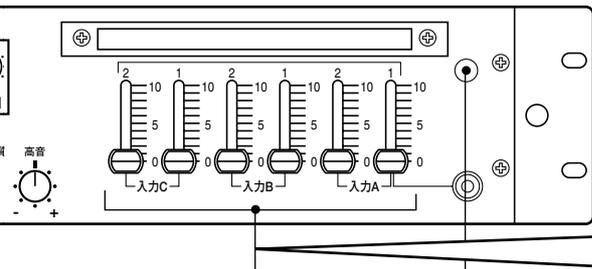
テープレコーダを放送するとき



ライン(入力C)の音量つまみを調整します。

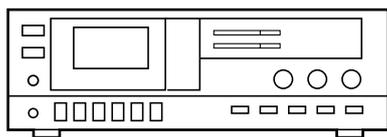
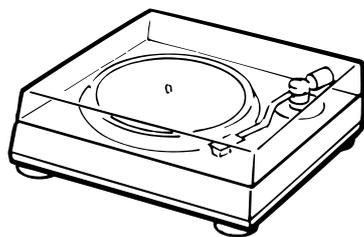
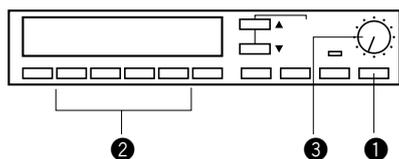
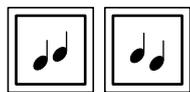


テープレコーダをセットし、音量をあげ再生ボタン(▶)を押します。
〔操作方法については、お手持ちのテープレコーダの取扱説明書をお読みください。〕

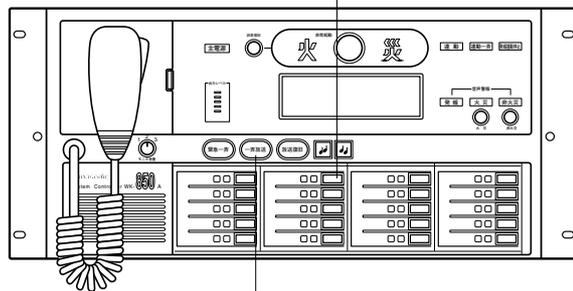


お願い

- チャイムやリモコンに接続してある場合は、その音量つまみは適当な音量のところに固定しておいてください。
- 使用しない音量つまみは“0”にしておいてください。



非常操作ユニットの放送したい場所の放送階選択スイッチを押してください。



一斉放送するときは、一斉放送スイッチを押してください。

〔アッテネータ（音量調整器）付スピーカをご使用のときは、各スピーカのアッテネータが効き、音量が絞られます。アッテネータ（音量調節器）が「OFF」状態のスピーカにも一斉放送したい場合は、緊急一斉スイッチを押してください。このときWK-850Aのマイクロホンで放送することもできますが、ミキシングになります（出荷状態）。ディップスイッチ（SW6の4）の設定により、マイク優先にできます（販売店にご相談ください）。放送階選択スイッチ、一斉放送スイッチ、緊急一斉スイッチ以外（例：外部制御入力）からの起動で放送している場合はWK-850Aのマイクロホンは使用できません。〕

放送が終了したら必ず放送復旧スイッチを押してください。

放送されます。

（放送が終了したら、放送復旧スイッチを押します。）

緊急放送のしかた

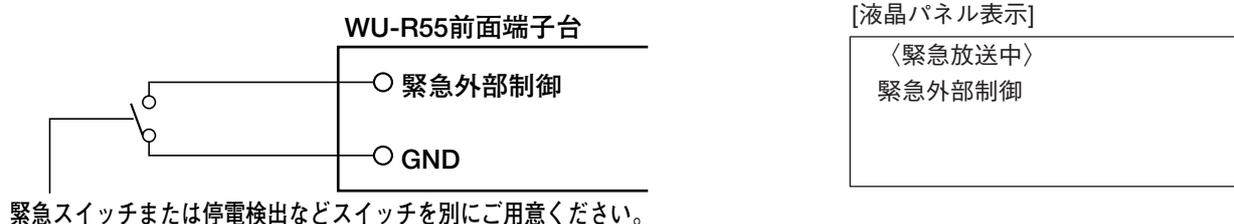
停電、ガス漏れ事故などの緊急事態に備え、業務放送より優先して蓄電池バックアップによる緊急放送をすることができます。

メモ

- ・緊急放送をする場合は、あらかじめ緊急放送用の工事をしておく必要があります。
- ・緊急放送には非常用とは別に、別売の非常電源ユニットが必要です。

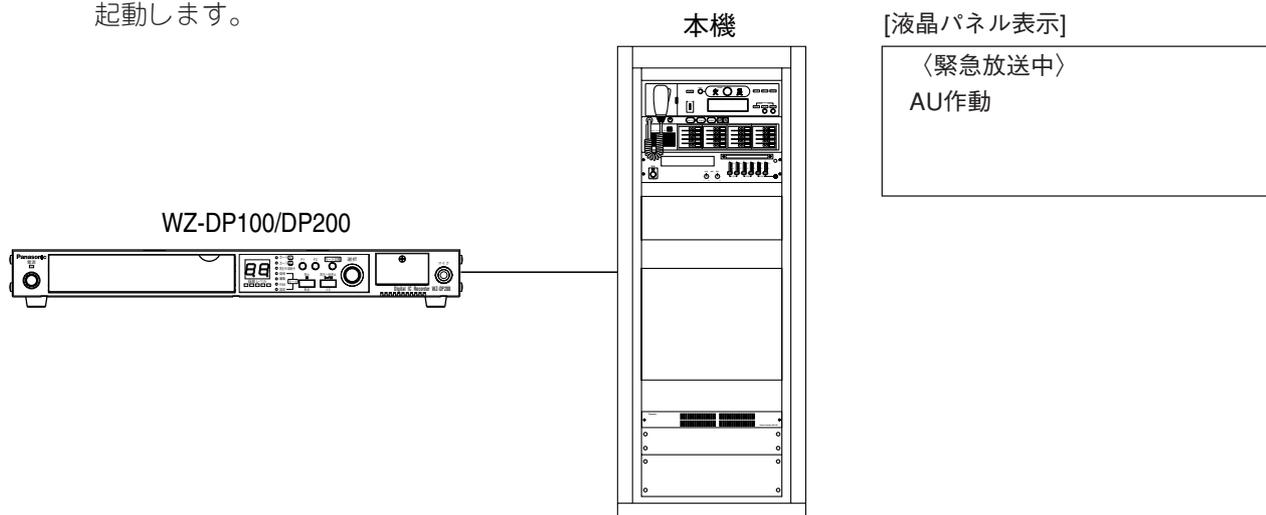
●本体からの放送

- ・本機の入出力制御ユニット(WU-R55)の緊急外部制御端子をメイクすると本機が起動します。
- ・非常操作ユニット(WK-850A)のマイクロホンで放送してください。また、非常操作ユニット(WK-850A)の緊急外部制御(音声入力)に接続した機器からも放送することができます。



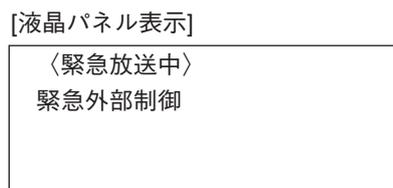
●アナウンスユニットによる自動放送

- ・デジタルICレコーダー/プレーヤーWZ-DP100/DP200(別売品)などを接続し、外部起動させることにより自動放送されます。
- ・本機の入出力制御ユニット(WU-R55)のアナウンスマシンBUSY、緊急用端子をメイクすると本機が起動します。



●非常リモコン、集中非常リモコンからの放送

本機の入出力制御ユニット(WU-R55)の緊急外部制御端子がメイクされ、本機が起動しているときは、非常リモコン(WR-850、WR-851)および集中非常リモコン(WR-855)のマイクロホンで放送することができます。



相互通話のしかた

放送が行われていないときは、非常操作ユニットと非常リモコン、集中非常リモコン間で、マイクロホンを使っての相互通話(インターホン)をすることができます。

(非常時で放送階が選択されている場合は、マイクロホンの音声は放送されます。)

●相互通話のしかた

1 放送が行われていないことを液晶パネルで確認する

[液晶パネル表示]

通常時:

(表示なし)

非常時:

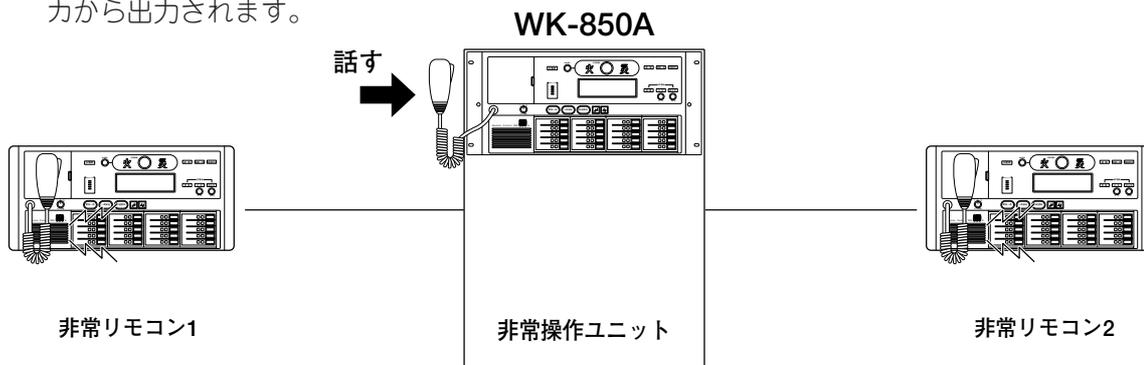
〈非常放送中〉
放送階選択スイッチを押せ

※放送階選択スイッチが押され、表示が左記以外になると、マイクロホンの音声は放送階へ放送されます。

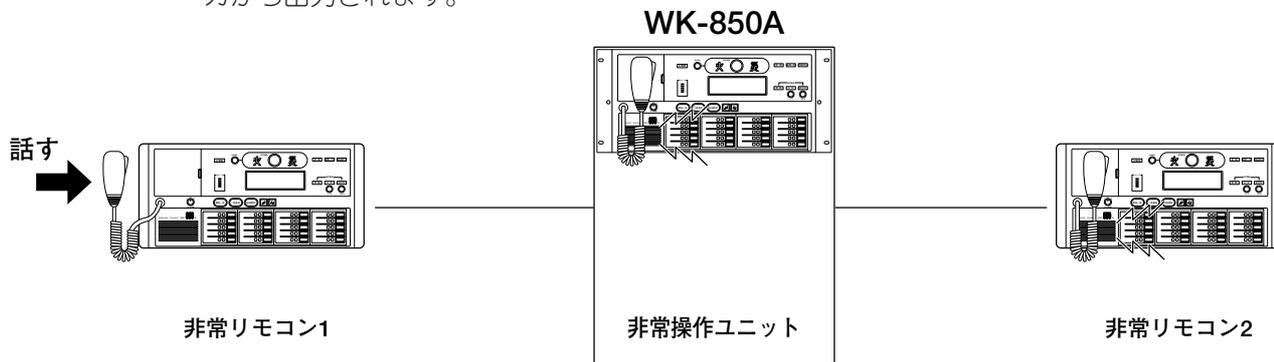
2 マイクロホンを取り、マイクスイッチを押しながら話す

音声が出力されていることは、自身のモニタスピーカからの出力で確認できます。

- ・非常操作ユニットのマイクロホンからの音声は、つながっている全非常リモコンのモニタスピーカから出力されます。



- ・非常リモコンのマイクロホンからの音声は、非常操作ユニットと他の非常リモコンのモニタスピーカから出力されます。



メモ

放送が行われていないときにマイクロホンのスイッチを押すと、電源が制御され電力増幅ユニット等のAC100V機器の電源が入ります。

日常点検

■自動点検について

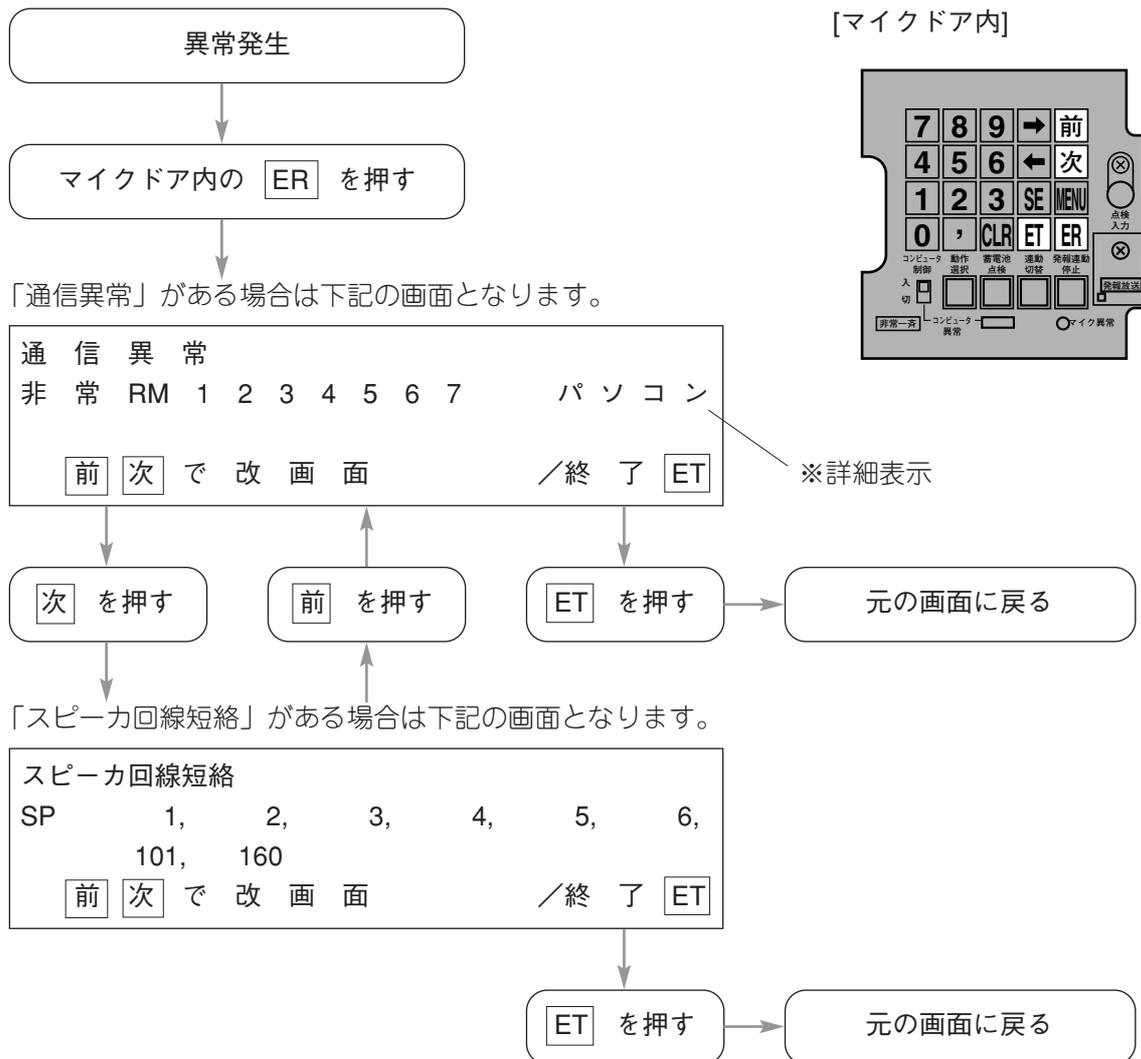
本機には、コンピュータによる自動点検機能が付いており、蓄電池異常・通信異常・スピーカ回線短絡の点検を行います。

点検項目	点検内容	点検方法 (コンピュータが自動的にを行います)	異常検出時の表示/ ブザー音	復旧方法
蓄電池異常	非常電源ユニット(WP-570B)内の蓄電池が正常電圧であるかどうかを判定します。	24時間おきに自動的に点検します。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">蓄電池異常</div> <ul style="list-style-type: none"> ブザー音(ピー)が鳴ります。 	販売店または保守契約店にご連絡ください。
通信異常	以下の通信を点検します。 <ul style="list-style-type: none"> 非常操作ユニット(WK-850A)と入出力制御ユニット(WU-R55)間の通信(架内通信)。 防災本体と非常リモコン(集中非常リモコン含)間の通信。 防災本体とパソコン間の通信。 防災本体とインターフェースユニット間の通信。 	常時、自動的に点検します。 <ul style="list-style-type: none"> 液晶パネル表示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">通信異常</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 通信異常 非常RM1, 2 パソコン 架内 <input type="button" value="次で改画面"/> <input type="button" value="終了ET"/> </div> <ul style="list-style-type: none"> 異常詳細表示は、次ページをご覧ください。 ブザー音(ピー)が鳴ります。 		
スピーカ回線短絡	スピーカ回線の短絡を点検します。	短絡状態のスピーカ回線で放送を行おうとしたときに検出します。	<ul style="list-style-type: none"> 液晶パネル表示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">回線短絡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> スピーカ回線短絡 SPno.1, 2 <input type="button" value="前次で改画面"/> <input type="button" value="終了ET"/> </div> <ul style="list-style-type: none"> 異常詳細表示は、次ページをご覧ください。 ブザー音(ピー)は鳴りません。 該当する選択スイッチの作動表示灯が点滅します。 	

※ブザー音(ピー)は、前面のいずれかのスイッチ(放送階選択スイッチなど)を押すと止まります。

● 異常詳細表示

「通信異常」、「スピーカ回線短絡」は、以下の操作で詳しい内容を確認することができます。



※詳細表示に表示される項目とその内容は以下のとおりです。

表示項目	通信異常箇所
非常操作	インタフェースユニット—非常操作間
非常リモコン1~7	非常リモコン(集中非常リモコン含)—非常操作間
パソコン	パソコン—非常操作間
架内	入出力制御ユニット—非常操作間

メモ

液晶パネルの非常リモコンの番号は、すべて表示された場合の例です。

日常点検

お願い

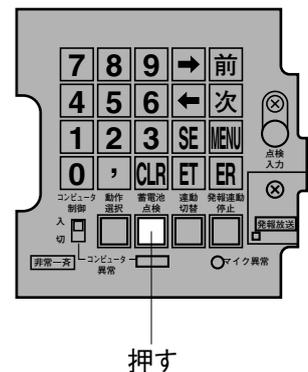
- 万が一の際、的確に機器が動作するよう、日常点検を行ってください。
日常点検時に異常を発見したときは、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。
※日常点検は動作の一部だけを点検するものですから、必ず定期点検を行ってください。
- 蓄電池は非常放送されなくても寿命があります。
点検の際、容量不足があれば全数新品と交換してください。ただし、蓄電池の交換は危険ですので、必ず販売店または保守契約店にご依頼ください。

電源の点検

●手動点検(蓄電池の点検)

以下の手順で行ってください。

- 1 非常操作ユニットのマイクドアを開け、蓄電池点検スイッチを押します。
- 2 蓄電池に異常があると液晶パネルに「蓄電池異常」と表示され、ブザー音(ピー)が鳴ります。
- 3 ブザー音(ピー)を止め、販売店または保守契約店にご連絡ください。
ブザー音はいずれかのスイッチを押すと止まります。液晶パネルには「蓄電池異常」と表示されたままです。
- 4 手動点検を行うと、それから新たに24時間おきに自動点検を行います。



●主電源の点検

非常電源ユニットの主電源表示灯が点灯していることを確認してください。(停電の場合は点灯しません。)

●蓄電池単体の点検

①点検スイッチを押す。

充電中表示1、2が消え、非常電源表示が緑色または橙色に点灯している。(蓄電池電圧の確認)

メモ

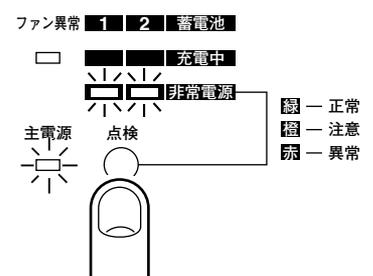
- 点検スイッチは10秒以上押さないでください。
- 点検スイッチを押すと、充電中表示1、2が消灯します。
- ファンが故障で停止すると内部温度が異常に高くなる場合があります。内部温度が異常に高くなっているときに点検スイッチを押しても「充電中表示」は消えませんが、ファンを点検・修理後、内部温度が低くなってから再度操作してください。なお、点検・修理は販売店にご依頼ください。

②充電中表示が点灯している。

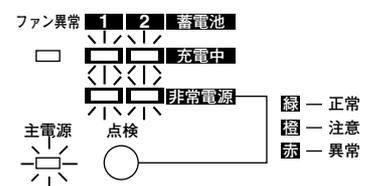
メモ

蓄電池を1個しか使用していない場合は、充電中表示は1灯しか点灯しません。これは蓄電池を接続していないため異常状態ではありません。
異常状態と間違えないよう、あらかじめ販売店に蓄電池の数をお確かめください。

①



②



■ 総合点検

非常放送、緊急放送、業務放送の各放送モードが正しく動作するかどうかを総合的に点検します。

1 非常操作ユニットのマイクドアを開け、動作選択スイッチを押し機器の状態を「点検モード」にします。
(状態は、「通常動作」⇒「点検」⇒「書き込み」の順に切り換わります。)

2 シフトキー(←、→)を押し、液晶パネル上の「1.SP回線OFF」、
「2.EMG24VブレイクOFF」、「3.SP回線OFF・EMG24VブレイクOFF」のどれかを選択します。

テンキーで番号(1,2,3)を入力しても選択できます。

SP回線OFF : スピーカからの出力をカットするため外部に点検時の音は聞こえません。液晶パネルやモニタスピーカで確認します。

EMG24VブレイクOFF : ローカルアンプの放送を中断せずに点検を行います。

SP回線OFF・EMG24VブレイクOFF : 外部に点検時の音は出力しませんが、ローカルアンプの音は中断せずに点検できます。

3 実際に点検する放送モードにして点検を行います。放送モードの切り換えは以下のとおりです。

非常放送 : 非常起動ボタンを押します。放送階選択スイッチを押し、音声警報の点検を行います。

緊急放送 : 緊急外部制御端子とコモン間をメイクします。

業務放送 : いずれかの放送階選択スイッチまたは緊急一斉放送スイッチ、一斉放送スイッチを押します。

4 終了する時は、動作選択スイッチを2回押します。



〈点検モード〉
1.SP回線OFF 2.EMG24VブレイクOFF
3.SP回線OFF・EMG24VブレイクOFF
→ ← で選択 /確定 [ET]



点検する放送モードを表示します。
(上図は非常放送モード時)

故障と思われましたら

動作不良と思われた場合、すみやかに販売店または保守契約店にご連絡ください。その際、異常が発生した前後の状況と次の項目について教えてください。

1. WK-850Aマイクドア内のコンピュータ異常表示が点灯していますか?
2. WK-850Aの火災灯が点灯していますか?
3. 液晶パネルに「蓄電池異常」と表示されていますか?
4. 液晶パネルに「通信異常」と表示されていますか?
※表示されているときはERキーを押し、通信異常を起こしているユニット名をご連絡ください。
(⇒25ページ参照)
5. 液晶パネルに「回線短絡」と表示されていますか?
※表示されているときはERキーを押し、回線短絡を起こしているスピーカ回線番号をご連絡ください。
(⇒25ページ参照)
6. WK-850Aマイクドア内のマイク異常表示が点灯していますか?

保証とアフターサービス (よくお読みください)

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書 (別添付)

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このラック形非常用放送設備の補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。
注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

電源を切ってから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容

品名	ラック形非常用放送設備
品番	WL-7050A/WL-7550A
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年 月 日	品番	WL-7050A / WL-7550A
	販売店名	☎ () -		

松下電器産業株式会社

AV&セキュリティビジネスユニット

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410